

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 横山泰一

1. 概要

ブロック名(会則に記載)の後に番号や歩行の通称を記載しても良い

ブロック名	近畿ブロック 5
歩行区間詳細 (分り易い地点)	スタート地点: 南伊勢町神前浦 ゴール地点: JR尾鷲駅
実施期間	2018年12月3日(月) ~ 12月6日(木)
全歩行距離	59 km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	横山泰一	73	4	13期
2		住山 茂	73	4	12期
3		山崎 隆	69	4	17期

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離/km	歩行参加者	備考
1	12/3	紀勢南島トンネル~神前浦	11	横山・住山・山崎	
2	12/4	紀勢南島トンネル~紀伊長島 矢口浦~道の駅海山	17 8	〃	
3	12/5	紀伊長島~中熊	18	〃	
4	12/6	道の駅海山~尾鷲駅	5	〃	

4. 参加費

参加者延べ日数 3人×4日

参加費合計 1,200円

5. 費用概算(横山の場合)

交通費 JR(大人の休日切符使用) 10,110円 (山崎さんの場合、行14,100円:HW7,690円+GS約6,500円)
 JR(新横浜~目白) 1,940円
 バス(南伊豆町営バス) 100円
 歩行中の車使用のガソリン代・バス代金 1,000円
 ガソリンと高速道路料金 6,200円
 宿泊費(酒代含む) 24,780円
 昼食その他 2,000円

合計(1人当り) 46,130円

6. 歩行の詳細

12月3日(月) 天気 曇り

紀伊長島駅にJR紀勢本線で到着(12:20)した住山さんと横山は自車で参加した山崎さんと合流し、3人で紀勢南島トンネルへ移動した。ここから住山・横山組は前回のゴール地点である神前浦へ向って

歩き、山崎さんは神前の宿に車を置き逆に歩くことにした。変則的な歩き方はトンネルの標高が 200m があるため下りを歩くことにしたことによる。

住山・横山組

紀勢南島トンネル大紀町入口からスタート (13:00)。いきなり全長が 1,550m あるトンネル歩行となったが、まだ新しく、歩道も完備されており歩きやすかった。トンネルを出ると南伊勢町になる。標高差 200m を一気に降って、平家の落人伝説のある七つの集落の一つ棚橋竈 (がま) に到着した。大きな夫婦銀杏に招かれるように入った長泉寺を見物した (13:47)。ここで国道 260 号と別れて海岸沿いの旧道を歩くとやがて峠越えの道となりニラハマ展望台に到着した (14:28)。古和浦湾の向こうに熊野灘が眺められた。小さな峠を越えると古和浦の集落に入った。家並を眺めながら少し浦から離れたところで山崎さんから電話を受け浦へ戻り山崎さんと合流した (14:54)。



紀勢南島トンネル入口で出発準備



長泉寺の夫婦銀杏



ニラハマ展望台から古和浦湾の眺め



古和川で山崎さんと合流

山崎さんの記録

自車で早朝 3 時半過ぎに自宅を出発し、高速で紀伊長島駅 10 時半過ぎに到着、駅前寿司屋で昼食名物? カキ寿司食べ、電車を待ち合流後南島トンネルに移動、2 人を降ろしてから神前浦の民宿八方向かい駐車場に止め、歩行を開始した (13:30)。地元の方々への格安魚販売を港で見て、一時間 4Km を目途にとぼとぼ一人旅、すぐトンネルで天神山峠道を行くと、海が見えて古和浦湾に到着 (14:40 頃) 2 人を探し古和川辺りで合流。



駅前寿司や、カキ寿司



神前浦の港での格安魚販売

合流後栃木バス停まで歩いて初日の歩行を終えた (15:10)。バスで神前へ向かう (15:11)。神前バス停から歩いて前回宿泊した民宿八方へ到着した (15:40)。

1 2月4日 (火) 天気 曇り

宿を 8 時 10 分に出て昨日歩き始めた紀勢南島トンネルへ車で移動し、住山さんと横山は国道 260 号を紀伊長島へ歩き、山崎さんはこの日の宿紀の国 (紀伊長島町海野) に車を置いてから対面歩行することとした。

住山・横山組

紀北町側トンネル出口を出発 (8:35) し、海の見えない山の中の整備された国道を歩いて錦漁港入口に到着した (9:20)。寄り道して錦漁港をぶらぶらした (9:28~9:45)。錦漁港を出発 (9:45) し、国道 260 号へ戻った。標高 100m くらいにあるトンネルを 3 つ抜けてサザンカが咲く道を長島港へ向かった。海へ出て国道と別れ、堤防沿いに歩き片上川歩道橋 (11:30) を通過して東長島へ入った。長島橋で海野から歩いてきた山崎さんと合流した (11:53)。これで本日予定のコースを歩き終えた。

国道 260 号は伊勢市と紀伊長島を結ぶ延長 120km の一般国道で、我々の紀伊半島歩行に利用してきた一般国道だが、いよいよここでお別れとなった。この道路は風光明媚なりアス式海岸を望む道路で「日本の道 100 選」に選ばれている。昨日から歩いてきた棚橋・錦間は紀勢南島トンネルとバイパスの完成で通行が便利になった。かつては北側の錦峠を越える片側交互通行の区間があり酷道と呼ばれた道路が、このトンネルの開通などで快適な国道となった。この旧道を当時 27 歳の田山花袋が歩いて紀行文を書いている。その南船北馬の一節を紹介する。「」内の斜体部分が花袋の文章。

前夜神前に宿をとり、「路は絶えず山岨水涯の間を行きて、峠をのぼり果れば、必ず海あらはれ、阪を下り終れば、必ず山の翠微出づ。……」いくつかの峠を越えて棚橋に着き、「この漁村は、一面海に面し、三面悉く高き山を以て包まれたり。わが越えて行くへき峠は何方なるべきかと、我は地図をひらきて仔細に掄 (けん) しぬ。……われわ錦浦を経て長島に至らんと思へる身の、里人の教ゆるに任せて、そのまま右の新道を取りて進む。」

彼が歩いた「新道」は旧国道 260 号のルートと思われる。くねくねと曲がった道が地形図から読み取れる。道幅は広く、勾配もゆるいが、路の長さや屈曲の甚だしさ、さらに風情に乏しく、「一方なら

ざる倦怠の情を起こさしめたるのみ」と記している。さらに、「錦浦の風光明媚なる」所からさらに歩いて、「幾たびともなく険しき阪路を昇降したる身の、早疲ること一方ならず、大きな豆さへ右の足の親指と中指との間に出来て、小石など踏付る時は、殆飛上るばかりの痛を覚ゆるほどなるに、我は勉めて歩調を緩くして、心を置きつつ」長島へ向う迷い路の多い峠を越えて国道に出たと記している。長島の宿に日没頃到着している。当時の峠越えの厳しさが伺える。青年花袋は長島から汽船に乗って新宮へ向かった。伊勢から海沿いの風光明媚な風景を堪能したからと書いているが、疲れ果てたに違いない。

注) 山岨 (やまそわ) 山の険しい所。 山のがけ、絶壁、急斜面、急坂など。(国語大辞典から)
水涯 (すいがい) みずぎわ。水のほとり。岸。水辺。(国語大辞典から)



紀勢南島トンネル大紀町入口



熊野灘を見下ろす



山茶花の咲く国道 260 号



長島港のテトラポットの蔦紅葉

山崎さんの記録

紀勢南島トンネル大紀町入口で分かれ、本日の宿の紀伊長島海野の「紀の国」に行き駐車後、歩行を開始(9:30)、生節の製造場を見て、橋を渡り長島区長島に入り、熊野古道の面影がある細道抜け、紀伊長島駅近くの海岸線の堤防まで約4.2Km歩き、出っ張りの松島にて一本(10:35)、2人に連絡するとまだ時間が掛かりそうなので急いで一旦宿に車を取りに戻り、長島橋手前に車で待機、2人と合流した(11:53)。



生節製造場



長島橋の左熊野の道標



紀伊長島駅先の防波堤松岩

合流後 3 人で昼食を食べてから紀伊長島の町（長島区长島）を見物した。レトロの香りが漂う漁師町を歩いて長島神社にたどり着いた。



昭和の雰囲気が残る家並を散策



長島神社の樹齢約 1,000 年の大楠 瘤が胎児に見えることから子宝に恵まれるという噂もある。

本日よりの行程は終了したが、まだ時間があつたので 4 日目の前半部分（矢口浦～道の駅海山）を歩くことにした。車で矢口浦へ移動した住山・横山組はここから有賀へ向かい、山崎さんは車を道の駅海山（みやま）へ置いてから有賀へ向かって歩いた。

住山・横山組

矢口郵便局前をスタート（15:10）。複雑に入りこんだ尾鷲湾沿いの道を生態や長浜などの集落を抜けて引本浦に着いた（16:13）。立派な山門に導かれて吉祥院に立ち寄った（16:20）。吉祥院山門は 1775 年に建てられ、他の建物が火災によって失われたが、この山門は火災を免れ、町内最古の木造建築物となっている。脇には 1854 年安政東海地震の際の津波の碑がある。橋を渡って紀北町役場支所に到着した（16:34）。ここで山崎さんと合流し車で宿へ向かった。



矢口浦の郵便局からスタート



矢口浦



長浜付近の海岸で釣りをする人



吉祥院山門と不許葦酒山門（臭い匂いを放つ野菜と酒は入るべからず）の石柱



車を待った役場前

山崎さんの記録

銚子川 透明度が高く奇跡の川と呼ばれている。

海山 種まき権兵衛の誕生地

道の駅海山に車を置き、みかん一袋を 300 円で仕入れ、種まき権兵衛の誕生地の道路壁画を横に見て銚子川手前のバスセンターでバスの時刻表を手に入れ、川を渡り、紀北町海山総合支所まで約 2Km 歩行(16:10)した。直ぐに折り返して道の駅海山駐車場に車を取りに戻り 16:50 頃支所前で 2 人ピックアップしてから宿（紀の国）に向かった。

12月5日（水）天気 晴れ

宿に車を置き、熊野古道始神（はじかみ）峠を越えて馬瀬まで三人で歩き、ここから山崎さんはバスで宿に置いた車をとりに戻り車で島勝浦へ移動、住山・横山組は予定コースを島勝浦へ向かうことにした。

宿を出発（8:50）。浜の赤い伊勢海老漁の網を見ながら細い道を登り古里へ。この道では全く車に合わなかった。



海野の漁港



漁港から眺める熊野灘



古里へ向かう

熊野古道三浦峠への道標があったが無視して海岸沿いの道を歩く。途中にミカンの無人販売所があり、山の斜面はミカン畑となっている。古里海岸 (9:40)



道瀬 (どうぜ) 交差点 (10:00)。ここで国道を離れ小さな半島を回る海沿いの道へ入る。途中で標高 74m の高塚山にある展望台へ寄り道した (10:59)。白亜の展望台に登ると熊野灘から大台ヶ原の山々など 360 度の展望が得られた。



高塚山展望台



紀伊の松島の絶景

展望台を出発し (11:20)、元の道へ戻ってから少し歩くと三浦の集落に出た。堤防上の道路を歩いていると津波記念碑があった。1944 年の東南海地震の際の津波被害の様相などが記されている。複雑に入りこんだリアス式海岸の浦々に「津波の碑」が建てられ、教訓として後世に伝えられている。南海・東南海地震の発生確率が高いことが心配されている。この地域を歩くことの心構えを新たにしたい

である。歩いてきた古和浦、錦、長島にも津波碑がある。



三浦の堤防わきにある「津波之碑」

国道に出るとやがて始神峠への分岐。ここに食堂があり、11時30分近かったので覗いてみたが17時からであきらめた。峠入口の公園で非常食・予備食を出し合って昼食とした。幸いにも自販機でお汁粉を買い腹の足しにした。

始神峠入口を出発(12:00)すると林道はやがて山道となる。熊野古道江戸道は良く整備されていて歩きやすい。



始神峠入口の案内板



江戸道を登る

始神峠(標高147m)に到着(12:40)。峠からは基石を並べたような島影の向こうに熊野灘が見渡せた。



始神峠にて

峠からの眺め

下り始める (12:55) と江戸道は 9 月の台風被害のため通行できず、明治道を歩く。



江戸道は通行止め

明治道の広い道と見事な石積み

明治道は道幅が江戸道より広く、所々綺麗な石積みが残されている。馬瀬側の始神峠入口に到着 (13:45)。やがて国道始神峠分岐 (14:00) に出て国道を歩くと馬瀬バス停に到着した (14:05)。ここから山崎さんはバスで古里へもどり宿に預けた車を運転して島勝浦の宿へ向かう。住山・横山組はそのまま予定したコースを歩く。

馬瀬バス停から国道と並行した町村道を歩いて上里手前で県道に入った。途中鯨の集落を通過して矢口浦に出た (15:15)。一昨日本浦方向へ歩き始めた出発地点で、その時はどんよりと曇っていたが、この日は快晴で青い空と海が綺麗だった。一昨日とは反対側南東に海岸沿いから内陸へ入り、白浦への分岐を過ぎるとすぐに小さな峠を島勝トンネルで越えて美しい浜、船越に到着した (15:44)。少し歩くと中熊公園 (15:50) があり、ここから天満洞が見えた。

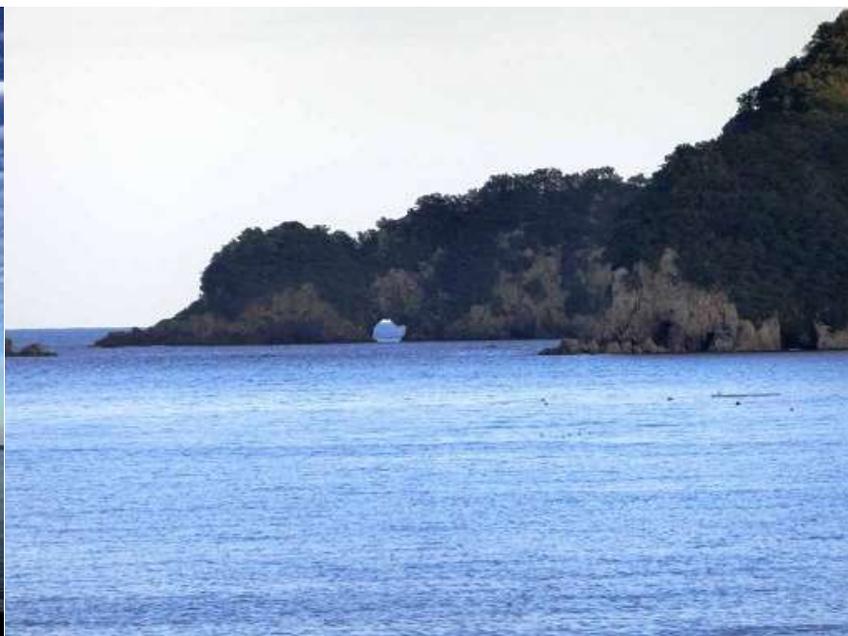


矢口浦

トンネルを抜けて船越へ



船越の浜（正面奥が白浦）



中熊公園から天満洞を望む

天満洞は海食作用で岸壁に穴が開いた海食洞門で年に数回だけ洞穴から朝日を見ることができる絶景ポイントとなっている。道は島勝浦へ続く峠への登りとなり、トンネルの少し手前で山崎車が追いついた（16:03）。ここで歩行を終了した。旅館望洋（16:30）到着。

白浦は江戸時代に熊野灘沿岸ではもっとも名を知られた捕鯨地であったことを後で知った。途中の「鯨」という集落もそれに因んだものであろう。また矢口浦の沖合に鯨岩と名の付いた岩礁が地形図に載っている。事前の勉強不足を悔んだ。熊野灘の捕鯨は和歌山県の太地町が有名だが九木、早田（はいだ）、須賀利、島勝、白浦、海野などでも行われていた記録があるという。次回は九木、早田を歩くので調査してみたい。

12月6日（木）天気 曇りときどき小雨

宿を8時に車で出発し、道の駅海山へ移動した。道の駅到着（8:00）。ここに車を置いて三人で熊野古道馬越（まごせ）峠を目指す。

道の駅をスタートし（8:40）、国道42号を歩くとすぐに馬越峠入口に到着した（8:47）。



道の駅にある馬越峠の案内図



馬越峠の入口

ときどき雨がパラパラと降った。大きな自然石が敷き詰められた世界遺産の石畳は美しい。歴史をかみしめなが

ら歩いた。夜泣き地蔵(9:08)に到着。 旅の安全を祈願するために建立されたが子供の夜泣き封じを願う人が多く訪れるようになったことから夜泣き地蔵と呼ばれているそうです。



夜泣き地蔵



石畳の道



峠に近づくと石畳の道は普通の山道になり、両側には松の植林帯が続く。中には目通り4mもの大木がある。尾鷲松は江戸時代から植林されていて、吉野杉、天竜杉とともに日本の三大人工美林として有名。馬越峠到着(9:53)。 標高332mの峠にはかつての茶屋の跡の石積みが残されている。



目通り4mの松の大木



馬越峠

歩行再開(10:00)して再び石畳の道を歩く。やがて尾鷲登り口の馬越公園に着いた(11:00)。この奥に大石があるので行ってみた。



雨に濡れた苔むした石畳を慎重に歩く



馬越公園



とにかく大きい大石
尾鷲の町を一望する熊野街道を歩く
馬越公園からは尾鷲市内へ坂道・熊野街道を通過して尾鷲神社に出た(11:30)。



尾鷲神社の大楠



尾鷲神社

尾鷲神社を見物後、住山・横山組は尾鷲駅まで歩いた。尾鷲駅到着(12:00)。山崎さんはバスで道の駅海山へ戻り、車で尾鷲駅に到着した(12:50)。これにより今回の歩行を終了した。山崎さんの車に便乗して、新横浜駅まで送ってもらって帰宅した。

歩行ルート



今回宿泊した宿についての感想

民宿 八方

前回歩行に続いて 2 度目の宿泊となった。出血サービスとして大きな煮魚が出てきたのには驚いた。タカノハダイという魚、少し臭みがあるため捨てられことが多いようだが秋からが旬。漁師たちは煮つけで食べる。アジは大きくて美味しかった。牛の土手煮も美味しかった。



旅館 紀の国

安いビジネスプランであったため、チェックインが 17 時からとなってしまう、食事には伊勢海老が付かなかった。料理は、刺身、煮魚、天麩羅と一通りの和食が出てきて、内容は一番良かった。

旅館 望洋

旅館に到着した時は少し不安となった。玄関は廃業した民宿と言った感じがした。釣り客が素泊まりで利用しているようだ。予約の時に言われたが、おかみさんの足が悪く、食事は二階の部屋に我々が運んだ。帰るときに大きなシフォンケーキが 3 つ玄関に置かれていた。おかみさん手作りのお土産をいただいた。車で来ていてよかった。帰宅して食べたが普通の美味しさだった。



以上